

3 地域との連携等による道路の整備・管理のあり方に関する調査研究

ITS・新道路創生本部PM
浦野 隆

近年、地球環境問題の顕在化、価値観・生活様式の多様化、少子・高齢化の進展、経済社会の成熟化、情報化社会の進展など、社会・経済環境を取り巻く環境は大きく変化してきており、道路行政サービスに対するニーズが多様化し、より高度なサービスが求められている。そのような中、ITS は道路交通のインテリジェント化を出発点としてきたが、IT の進展に伴い現在ではその裾野ははるかに拡大している。

本調査研究では、道路の利活用や市生活への貢献の視点から、地域との連携による道路の整備や管理に関するビジネスモデルの検討に取り組んでいる。

以下に、ITS の地域展開の考え方を整理するとともに、事例として駐車モデルを取り上げ、荷さばき駐車及びスマートPA について紹介する。

(1) ITS の地域展開の考え方

ITS の地域展開は、先駆的な地域に対する情報通信技術の活用支援が中心であり、内容的には官主導の ITS 構想に基づく施策の地域への適用が主で、技術的な視点が強いアプリケーション開発に留まっていた。したがって、多くの場合はイベント的な試みや実証実験が主目的となり、継続的な取り組みがなされているとは言いがたい状況にある。

今後、ITS を地域で展開していく上では、課題の解決を目指す地域で、まちづくりといかに連携・協働していくかが重要な課題である。したがって、今後の地域での ITS は、個別的な技術開発ではなく、ニーズ等に基づくサービスを統合的に展開することにより、地域を巻き込んだ継続的な取り組みとすべきである。

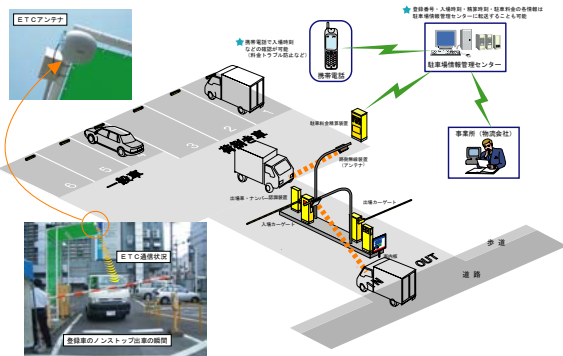
また、地域課題を解決し生活環境を向上させていくためには、行政のみならず

住民・企業・NPO など地域の多様な主体が連携して、知恵や資源などを出し合うことが必要である。そのためには、どこでも、誰でも、必要な時に、必要な情報を得ることができるユビキタス情報基盤を構築し活用していくことが重要である。

だが、地域情報化の推進を地方自治体のみ依存して進めていくことは、財政・人的などの資源の両面から限界にきている。地域社会の環境変化に起因する課題を ITS 導入により解決していくためには、コミュニティを支える仕組みとして浸透させていくことが必要である。そのためには、住民、企業、NPO などと地方自治体などの行政サイドが双方向のやり取りによる情報連携を図るとともに、これをひとつの共通基盤の上にサービスとして展開すべきである。

(2) 豊田市における荷さばき駐車システムの本格運用

路上での荷さばき車の排除により、歩行者に安全な道路空間を提供するとともに、排気ガスによる環境問題や、交通渋滞や事故といった交通問題を解決する手段として、平成 19 年度に中心市街地の西町駐車場において、ETC 技術を活用し自動決済の仕組みを取り入れた共同荷さばき駐車の実験を実施した。運用方法は、当初から受益者負担を前提とした有料実験として取り組み、平成 20 年度からは民間主体での本格運用に移行した。社会実験期間中は路上からの荷さばき車両の排除が目的であったが、今後持続的に事業を行なっていくためには、採算性の向上が望まれること



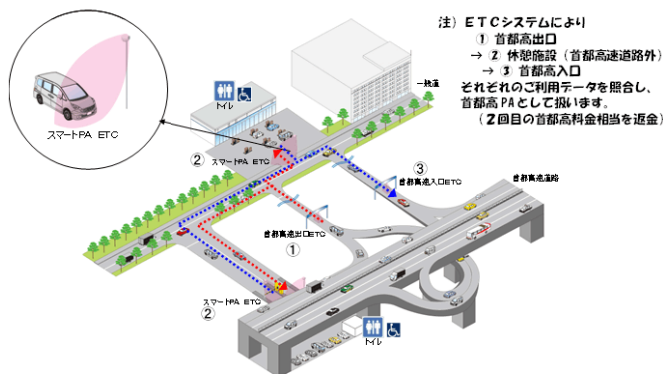
(豊田市の荷捌き駐車システム)

から、利用者を一般 ETC 車に拡大するなど、各種のアイデアを抽出し、サービスの向上を図ることが必要である。

(3) 首都高におけるスマートPA 実験

スマート PA には、ETC ビーコンを設置し、この認証によりモニターの利用を確認、規定の時間内に再び首都高に戻った場合には、その 2 回目の首都高利用料金を打ち消すサービスである。実証実験を通じて、利用者から要望の多い休憩所及びトイレの機能を充実させるため、ETC を活用したシステムの検討及びシステム開発、モニター調査及び沿線路外施設を活用したスマート PA のサービスの有用性の検証・評価を行い、今後の展開方策の検討を行うこととしている。

これまでいくつかの具体的な研究内容を実際のフィールドに展開してきたが、今後も地域のまちづくりを支えるコミュニティでの ITS の研究を進め、それらを体系的に連携させることにより、住民がより安全、快適に暮らせる社会を創造していきたいと考えている。



(首都高のスマートPA 実験(首都高 HP より))